

# ICTを効果的に活用した教材開発の例（中学校）

## 活用① アンケート機能を活用した実態把握

単元の導入時、または、既習内容の定着状況に関する生徒の実態について、アンケート機能を使って把握する。これにより、教材開発に関わって以下の2点が期待できる。

- (1) アンケート機能を使って既習内容（知識）に関わる問題を出題することで、単元に関わる学習内容の定着度を把握し、単元構成や指導方法を工夫することができる。
- (2) アンケート機能を使って資料活用能力に関わる問題を出題することで、単元で提示する資料について、生徒の実態に合わせた難易度に設定したり、指導・援助を工夫したりすることができる。

中学校歴史「古代国家の歩みと東南アジアの世界」  
合計点 0/35点  
小学校で学んだことを振り返ってみましょう

× ア（聖武天皇）、イ（藤原道長）、ウ（聖徳太子）の人物を、正しい時代に並んでいるものを選びましょう。

アーイーウ  
 ウーイーア ×  
 イーアーウ  
 ウーアーイ  
 アーウイー  
正解  
 ウーアーイ

分析情報  
平均 37.143ポイント  
中央値 40.000ポイント  
範囲 29-50ポイント

合計点の分布

合計点	人数
30	1
35	1
40	1
45	1
50	1

単元に関わる実態（知識及び技能の定着状況）について、アンケート機能でテストを作成して把握する。

即時評価

全体の傾向や一人一人の実態を把握することで、単元構成、一人一人に応じた指導・援助をくふうすることができる。

## 活用② Web 会議システムを活用した遠隔地にいる方との対話的な学び

生徒主体で設定した課題に対して、資料を基に追究し、考えを集約する。

生徒が集約した考えを現地の方に聞いていただいた後、現地の方の考えを聞く。

### 【Web 会議システムの活用】

現地の方の考えを受け、さらに質問したり、やり取りをしたりすることで、学びを深める。



生徒A：  
起業がカギとなっていることは分かったけれど、起業する人はなぜ〇〇村を選んだのだろうか？

生徒B：  
過疎地域なのに、「持続可能な社会に繋がる」とは、どういうことだろうか？

現地の方が左記のように、生徒からの質問に対してその場で回答することで、学びを深めることができる。